

# 番傘川柳本社 1月句会

日時 令和8年1月11日(日)  
 会場 たかつガーデン  
 出席 柴田 茂俊 62名  
 司会 森 桂子  
 呼名復唱 柴田 桂子  
 記名 銭谷 まさひろ  
 清記 柴田 桂子

情熱的でパワフルとされる丙午の新春句会。寒風が吹きすさぶなか初出席の2名の方を含め元気な川柳仲間が集いました。本日は川柳塔社の居谷真理子さんをゲスト選者としてお招きしました。会場内には生き生きとした披露と呼名の掛け合いが響きました。

先月は森中恵美子追悼記念句会が開催され、参加者270名(当日出席160名)で恵美子名誉顧問をお偲び

しました。もう黄泉の国で句座を開いておられるかも知れません。私たちは恵美子先生の川柳への情熱をしっかりと引き継ぎたいと思います。今年も精いっぱい川柳を楽しみたい、健康で良い年となるよう祈念したいと思います。

なお2月句会の会場は、たかつガーデン地下2階アジサイの間となります。ご出席をぜひお待ちしております。

## 席題 あべこべ 下村 郁子 選

まず猫に食べさせてから夫にも  
 人さまがベットの機嫌取る時代  
 学校では手抜き塾ではしゃかりき  
 年金で若い子供を扶養する  
 ネットで稼ぐ孫からもうお年玉  
 昼行灯5時から後は主役です  
 ロボットにこき使われている職場  
 上役に挨拶されてパピペポ  
 イエスマン酒が入るとワンマンに  
 いじめてた部下が昇進指示された  
 パワハラを恐れ社長が気を使う  
 裏着てはると思っけどお洒落かも  
 ビンテージものが新品より高い

大堀 正明  
 大西 将文  
 奥野健一郎  
 森 廣子  
 原田 正士  
 松岡 篤  
 奥野健一郎  
 油谷 克己  
 松岡 篤  
 倉 周三  
 八木 幸彦  
 小川賀世子  
 田中 薫

ひれ伏して金を返せと貸した人  
 右ひだり反対に履くやんちゃ振り  
 弁護士に預けた金が返らない  
 あべこべに見て名画だとほめたたえ  
 人工のダイヤ本物より光る  
 逆縁に神も仏もいなくなる  
 太陽と逆の暮らしをしています  
 増産から抑制米の不信感  
 政治家が庶民にいばるまつりごと  
 あべこべの夫婦が何故か馬が合う  
 健康にふりまわされて不健康  
 加害者を責めず被害者注意する  
 ピアニスト指を隠して足が舞う  
 客からの野次に笑いがおこる芸  
 ほめてへんで吐ってるんや礼言いな

吉富ひろし  
 林 ともこ  
 吉富ひろし  
 大堀 正明  
 田中 薫  
 田中 新一  
 中岡千代美  
 北川ヤギエ  
 八木 幸彦  
 大西 将文  
 平松ひむ三  
 こはりつよし  
 松田 礼子  
 高橋 裕樹  
 原田 正士

逆走スリル風も向きかえる人生  
 ほんとうは赤く咲きたい青いバラ  
 あべこべに影がリードをしてくれる  
 豪邸のとなりの長屋しあわせそう  
 あべこべの顔を戻して家路着く  
 聞き上手重い話を軽くする  
 デジタルが武器で職場の下剋上  
 戦争は神を信じて人殺す  
 いつからか疵つきやすいのは大人  
 逆立ちの空はこんなに広く見え  
 真実で傷つけ嘘で慰める  
 裏返しすれば最新のファッション

小山恵美子  
 桑原すゞ代  
 古川 洋子  
 成山きよし  
 辻 肇  
 山田 恭正  
 居谷真理子  
 山本さくら  
 桑原すゞ代  
 中岡千代美  
 山本さくら  
 下村 郁子

## 宿題 庄 巻 稲葉 良岩 選

砂漠ごと燃やす連勝二十七 平松ひむ三

庄巻の国宝見終えずぐトイレ 辻 肇

五億円の値札を付けて泳いでる 成山きよし

マンガから抜け出たような 万流 小川賀世子

大スターが舐めている天国図 大西 將文

ヒョウ柄が三人並んでやって来た 成山きよし

極めつけはシメに出てきたジャンボパフェ 片岡 加代

水の旅大海原が待っていた 居谷真理子

のぞみから明石大橋大落暉 田中 利一

私の時計すべてあなたでできている 松田 礼子

マスク外してオリオンの空を吸う 山本さくら

CTに写る闇夜に似てる深い穴 桑原すゞ代

気球から仁徳古墳息を飲む 原田 正士

庄巻の夕陽に溶ける白昼夢 穂山 常男

あの舞台最後のセリフたまらんな 三好 聖水

静けさのなかに庄巻能舞台 湯澤 孝扇

テスト前徹夜三日の部屋籠り 高橋 裕樹

庄巻のメタファーだったゲートルの詩 片岡 加代

熱爛に蟹をせせって外は雪 西上 遊二

大谷の一打だあれも動かない 松本 柊子

初競りでなんと鮪に五億円 奥野健一郎

全身の毛穴震える大太鼓 湯澤 孝扇

結末でみんなしびれている法話 高橋 裕樹

ドローンでも足がすくんだチョモランマ 森 茂俊

チリメンジャコを匠は三枚に下ろす 正信寺尚邦

千兆の光をまとう嶺の雪 平松ひむ三

フラミンゴ飛び立つしー息を飲む 田中 利一

農作業貴く父の丸い腰 古川 洋子

まなうらに残るスイスの大氷河 田中美弥子

荒れた手だ喝采知らぬ母の手だ 桑原すゞ代

仲代の眼が万感を物語る 居谷真理子

闇の画布を一人占めする大花火 大西 將文

岬から見渡す広い空と海 田中美弥子

心にもでかい門松たてている 西澤 知子

趣味数多我が人生は今が山 山藤 聖子

気球からデッカイ鍵穴を覗く 銭谷まさひろ

おっしゃる通り庄巻でした理想論 柴田 桂子

宇宙の不可思議ミクロからマクロへ 下村 郁子

柏汁のうまさ寒さを吹き飛ばす 田中 新一

賑わいの番傘本社初句会 稲葉 良岩

宿題 祝 ころ 太西 將文 選

一句でも抜けければ飲める祝い酒 谷口 東風

御神酒なら飲んでほしいと妻の許可 森 茂俊

欲しいのはおめでとうよりお年玉 植野 繁子

気は短いのに祝辞だけは長い 高橋 裕樹

にらまれて赤くなってる睨み鯛 湯澤 孝扇

お祝いの言葉より金本当です 三好 聖水

大阪締め三度も祝う念のよさ 沼田 捷二

父がほころぶ才色兼備という祝辞 中岡千代美

ノンアルで癌寛解の祝い膳 原田 正士

昔ほどめでたくはないお正月 山本さくら

そこそこに元氣晚酌欠かさない 岩田 明子

誕生日を祝いたこやき買う一人 大堀 正明

わたくしを祝う糸目などはつけぬ 柴田 園江

さあどうぞ下戸お手上げの祝い酒 植野 繁子

最後にはひとりじりくり呑むお酒 三好 聖水

大往生を祝う笑顔の家族葬 菱木 誠

喜寿祝い戦争知らず生きる幸 穂山 常男

米寿を祝うささやかな一人酒 森 廣子

新年の兵士にせめて静寂を 高橋 裕樹

そこそこに生きて初春祝う酒 北川ヤギエ

のっと出る初日が新春を祝う 荻野 浩子

祝い膳鯛の尻尾が反り返る 奥野健一郎

祝われて大海原へ投げ込まれ 下村 郁子

誕生日スマホに届くプレゼント 播本 英二

ぼろぼろの誓詞と祝うダイヤ婚 田中美弥子

祝ってくれる手の温もりが宝もの 井本 健治

戦勝の祝いの裏に死者が居る 松岡 篤

祝い酒みんなが笑い泣いている 穂山 常男

一台の酒でひと日の無事祝う 瀬川 幸子

祝杯はそっと彼岸の妻に上げ 柴田 桂子

おひなさま欠伸ひとつの小さな罪 桑原すゞ代

新春を祝い気持ちを滾らせる

慶祝の節目節目に酒がある

祝膳句を愛でつつ森伊蔵

袱紗から鶴が飛び立つ嬉しい日

めでたさを神と言祝ぐ柳箸

いのちあることをみんなに祝われる

やばなわたし祝ってくれる冬の虹

百歳だ母は小さく小さく座す

さり気なくバラ一本のおめでとう

甦る命言祝ぐひとり酒

辻 肇

菱木 誠

平松むむ三

正信寺尚邦

沼田 捷二

田中 新一

古川 洋子

小川賀世子

片岡 加代

大西 将文

宿題 予 感

中岡千代美 選

今朝の茶柱新春句会抜けそうだ

生駒山今朝はくっきりいい予感

まだ女もえる予感のした誘い

音たてて世界が割れるやな予感

ご来光今年は浴びていい予感

将来のスターの予感名子役

うぶでした恋の予感におののいて

大物になりそう人が寄ってくる

アンテナにビビッと絡むよい兆し

出会いからたちまち恋になる予感

根拠ない当たる予感のジャンボくじ

嫌な予感家族を呼べと医者が言う

原田 正士

成山きよし

小山恵美子

辻 肇

辻 肇

田中 薫

こほりつよし

八木 幸彦

阪本 秀子

菱木 誠

播本 英二

倉 周三

冷めたコーヒー別れの予感外は雨

少しだけ変わる予感空は青

経験値悪い予感によく当たる

その兆しあったと思う胃の痛み

嫌な予感はずれてホッと独り酒

念入りにお化粧誘いくる予感

手を放せば一度と逢えない予感する

焼き芋がほっこり良い年の予感

ラッキーが続く不安になってくる

吉報は梅咲く頃になる予感

合カギと長い戦になる予感

あの朝に虫の知らせはありました

逢えそうな予感駅まで行ってみる

知らん顔された好きって言うてるな

百歳まで生きそうボクも相手も

シグナルだった精一杯のあの涙

目玉焼きつぶれ前途は多難です

この道を行けばあなたに逢えそう

AIに負けぬ予感をしかと持つ

予感みな外れて一人飲んでる

後出しで予感的中しただなんて

絡みつく視線溺れてゆく予感

思ったよりずっと素敵な方でした

あの世へはきつと事故死かポックリ死

林 ともこ

林 ともこ

播本 英二

穂山 常男

西上 遊二

鈴木 栄子

奥野健一郎

銭谷まひろ

桑原すゞ代

小川賀世子

正信寺尚邦

桑原すゞ代

片岡 加代

岩田 明子

森 茂俊

柴田 桂子

西澤 知子

松本 梶子

田中 新一

本田 智彦

瀬川 幸子

井本 健治

奥野健一郎

谷口 東風

二本目のタバコはさよならの匂い

さよならの予感やさしくなった人

これきりになりそう雨が雪になる

とても自然に相合い傘が出来たから

宿題 こぼれる

居谷真理子 選

笑みがこぼれ涙もこぼす人間味

拭いても拭いても拭いてもまだ涙

水河溶け地球の水がこぼれそう

ほらほら歯科医の予約取りまじよ

こぼれでる笑みが美人にしてくれる

こぼれ種立派に咲かすアスファルト

やさしさに甘えてばるばると本音

愚痴がポロポロ飛び去ったのは青い鳥

楽しみな夢で溢れる新手帳

ダンディーな夫でしたが食べこぼし

こぼれる程の笑みの源泉なんだろう

強運の手から慢心がこぼれる

つい笑みがこぼれる初恋の記憶

こぼれでる愚痴魔法のイチゴパフェ

今更にあふれる父母の慈しみ

表面張力限界を超えコップ酒

枳酒をこぼさぬようにおちよぼ口

老い悲し些細なことですぐ涙

山本さくら

山田 恭正

片岡 加代

中岡千代美

林 ともこ

奥野健一郎

植野 繁子

菱木 誠

谷口 東風

田中美弥子

柴田 桂子

吉富ひろし

荻野 浩子

大西 将文

山本さくら

島田 握夢

井本 健治

阪本 秀子

正信寺尚邦

田中 薫

倉 周三

そここで愚知がこぼれる路地の店 松岡 篤

ため息をつくやる前とやった後 谷口 東風

刃こぼれがひどい引退が近い 三好 聖水

存分に咲いたと椿零れ散る 森 廣子

才能がこぼれるかもとずっと蓋 下村 郁子

スマホからフェイスニュースがこぼれ出る 田中 薫

愛しい日日零しながらの林住期 小川賀世子

来んでいいのについ笑みがこぼれ出る 鈴木 栄子

ヒミツやと眼の輝きが違います 植野 繁子

こぼれても一円玉は無視される 森 茂俊

最後まで愛でる花びらこぼれても 岩田 明子

煮こぼれて少し汚れた白になる 桑原すゞ代

十を聞き九はこぼれている海馬 片岡 加代

南天の朱ポロポロ春を引き寄せる 小川賀世子

建前の壁の口から本音漏れ 平松ひむこ

必要な人がこぼれる福祉策 こほりつよし

強くて少し淋しいこぼれ種 銭谷まさひろ

闇魔さんのリストに私見つからぬ 北川ヤギエ

食べものはこぼすか愚痴はこぼさない 穂山 常男

八百万も居るのに絵馬はこぼれ落ち 正信寺尚邦

プライドは捨てぬ刃こぼれているが 瀬川 幸子

縁のないものが指からこぼれ落ち 居谷真理子

宿題 ゆうゆう 片岡 加代 選

ゆうゆうと泳ぐ鯨に乗りたいたいな こほりつよし

年金と左ウチワのはずでした 正信寺尚邦

傷ついてもゆうゆう自転する地球 大堀 正明

スローライフ女ひとりを楽しまん 小川賀世子

駅前をゆうゆう渡る奈良の鹿 田中 薫

医者なんか行くことないと自然治癒 北川ヤギエ

ゆうゆうと鹿が横切る冬日和 林 ともこ

ゆうゆうと土と読書にまみれたい 吉富ひろし

悠々自適自然相手に生きてます 荻野 浩子

ゆうゆうと一碗ささげ説く平和 銭谷まさひろ

何事もなかったように笑うのみ 田中 新一

見上げれば闇に寝そべる天の川 森 茂俊

ゆうゆうと生きてこの世を仕舞いたい 大西 将文

晴耕雨読心静かに墨を擦る 井本 健治

ゆうゆうと見送る君の誘い球 松本 柎子

初詣のように歯医者へいきました 西澤 知子

風が好き太陽が好き星が好き 中岡千代美

焦らずに縁を信じている四十路 山田 恭正

一日でだらけてしまふ里帰り 島田 握夢

馬車馬よりインドの牛になりたいな 成山きよし

越冬つばめ左うちわで暮らしてる 西澤 知子

犯人は欠伸しているノラの猫 大西 将文

ゆうゆうと構えていたらバス発車 林 ともこ

何事もなかったように震度4 山田 恭正

毎日が休日急ぐことはない 菱木 誠

ゆうゆうと徘徊してるおじいちゃん 播本 英二

どん底に落ちると恐いモノはない 鈴木 栄子

マイライフ足枷などは取っ払う 柴田 桂子

値札など見ないで買いたい物がしたい 正信寺尚邦

天国でやっとうゆうゆうしてる母 沼田 捷二

訳あって座敷わらしと同居中 高橋 裕樹

一言を控えゆったり聞いている 奥野健一郎

百回泣いたら百一回笑う 山本さくら

買い物のかごにメロンと松茸と 高橋 裕樹

日向ぼこ自己完成の丸になる 成山きよし

眠らない熊は雪道でも走る 森 茂俊

ヤドカリを横目に亀は泳ぎ去る 居谷真理子

その目暮らしの私にそんな暇はない 島田 握夢

のびのびと脇に徹するカスミ草 奥野健一郎

シルバーカー青点滅もなんのその 田中 利一

ゆったりと泳ぐジンベエザメ泳ぐ あはな奴とばれてしまえば楽なもの 山本さくら

ゆうゆうとしてはおれない春と秋 井本 健治

予習復習やっているからあわてない 瀬川 幸子

ゆうゆうと歩こう時代遅れでも 片岡 加代